



悪
かったな、
北斎の娘で

おいしい、
応為

長澤まさみ 高橋海人 大谷亮平 篠井英介 奥野瑛太 寺島しのぶ 永瀬正敏
和田光沙 吉岡睦雄 早坂終人 笠久美 一華 小林千里

監督・脚本:大森立嗣 原作:飯島虚心『葛飾北斎伝』(岩波文庫刊)/杉浦日向子『百日紅』(筑摩書房刊)より「木瓜」「野分」
製作:大田和宏 木村省悟 吉村知己 企画・プロデューサー:吉村知己 音楽:大友良英 撮影:辻智彦 照明:大久保礼司 録音:吉田憲義 浮世絵制作・指導:向井大祐 松原亜実
美術:霧河江穂子 美術監督:原田清生 装飾:遠藤剛 編集:早野亮 VFXスーパーバイザー:田中貴志 衣裳:大塚清 ヘアメイク:豊川京子 床山・かつら:寛井孝治 特殊メイク:梅沢壮一
音響効果:藤赤さくら DIカリスト:倉森武 スチール:三木匠宏 キャスティング:岸さおり 助監督:小南敏也 制作担当:飯塚肇
宣伝プロデューサー:平下敦子 アニメーションプロデューサー:庄司智江 ラインプロデューサー:梅本竜矢
製作幹事・制作プロダクション:東京テアトル ヨアケ 製作:「おいしい、応為」製作委員会(東京テアトル FIVESTAR Interactive ヨアケ) 企画協力:エフ・エム・ジー 宣伝協力:清聖
配給:東京テアトル ヨアケ 宣伝ビジュアル提供画像:太田記念美術館、すみだ北斎美術館 / DNPartcom、千葉市美術館 ©2023「おいしい、応為」製作委員会

10.17 Fri.

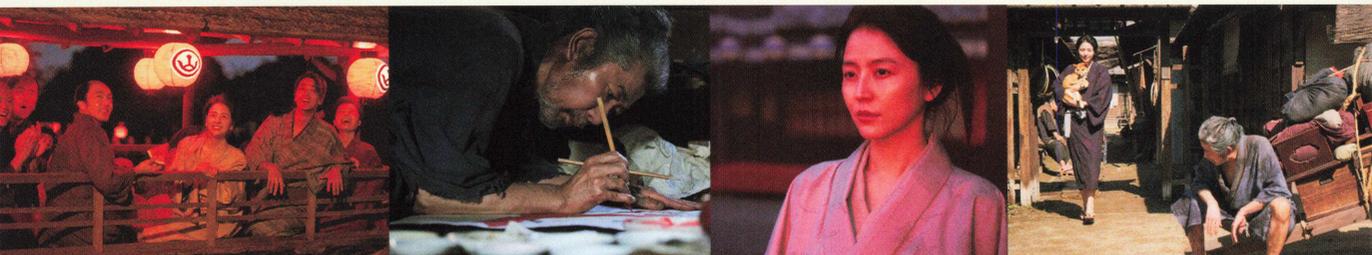
もう一人の天才・葛飾応為の謎多き人生。光と闇を描いた彼女が照らし続けたのは――



自分の幸せは、
自分でしか描けない――



世界的にその名を知られる浮世絵界の巨匠、葛飾北斎には、“もう一人の天才”ともいえる実の娘がいた。名を、お栄。ある絵師のもとに嫁ぐが、かっこばかりの夫の絵を見下したことで離縁に。北斎のもとに出戻ったお栄は、父娘として、また、師弟として、北斎と生涯を共にする。二人が暮らした貧乏長屋は、画材や絵で散らかり放題。茶も入れられず、針仕事もできないお栄だが、絵の才能だけは父親ゆずり。いつも北斎から「おーい、筆!」「おーい、飯!」と呼ばれることから、葛飾応為という号を授かり、当時は珍しい女性の浮世絵師として、絵を描くことに人生を捧げる。人柄は自由奔放で豪胆、持ち前の度胸で時代を駆け抜けていく応為だったが、現在では世界に十数点しか残っていない彼女の絵は、その“影の深さ”が印象的だ。父親の画風とは違う、まるで西洋画のような色彩から浮かび上がる、現代的な女性像。一体、葛飾応為とはどのような人間だったのか。



映画『おーい、応為』は、葛飾応為という先駆的な女性アーティストを今に映し出し、父、北斎と過ごした二十余年をダイアリーのように綴る。恋に、友に、自らのこれからの。葛飾応為を演じる長澤まさみが、その独創的だが愛くるしい魅力を縦横無尽に発揮する。大森立嗣監督とは数多くの主演女優賞を受賞した『MOTHER マザー』以来のタッグ。映画終盤の長回しによる応為の涙、涙の独白シーンは圧巻!そして永瀬正敏が魅せる、絵師としての凄まじさと、父としての想いが混然と溢れ出す、これまでにない北斎像。さらに高橋海人が、応為のよき理解者にして、著名な浮世絵師、溪斎英泉(善次郎)を軽やかに演じ抜く。

これは、あなたの心をそっと照らしてくれる物語。



吉原格子先之図 葛飾応為筆 大田記念美術館所蔵 Ooi Katsushika "Courtesans Showing Themselves to the Strollers Through the Grille"

応為が吉原遊廓を行き交う人々を描いた肉筆画。レンブラントのような大胆な陰影が際立つが、どこか女性らしいぬくもりを感じる。応為の眼にはこの情景がどのように映っていたのだろうか。いわゆる浮世絵のイメージとは一線を画す、応為の才覚があふれる代表作。



ムビチケカード
8月29日(金)発売(予定)
¥1,600(税込み)
※一部劇場を除く

劇場内での映画の
撮影・録音は犯罪です。
映画情報の提供先は
www.eigakan.org
0120-550098